

慶應義塾大学試験問題（三田）

平成 28 年 1 月 28 日（木） 3 時限施行		学部		学科・専攻		年 組	
担当者名	権丈 善一 君	学籍番号					
科目名	[商] 社会保障論Ⅱ	氏 名					

講義内容を踏まえて、次の問題Ⅰ～Ⅳに答えなさい。

Ⅰ 次の文章は書評である。この評者の年金理解を論評しなさい。その際、次の用語を用い、用語に下線を引いておくこと。

Output is central、スプレッド、マクロ経済スライド、公的年金、賦課方式、積立方式

◎本よみうり堂（2014/05/25 東京読売新聞）◇評・松井彰彦（経済学者 東京大教授）

僕がまだ子どものころ、父は人から相談を受けると、年金に加入するよう奨（すす）めていた。年金加入が得な理由が賦課方式にあるということが分かったのはずっと後のことだった。賦課方式とは、簡単に言ってしまうと、現在の退職世代の年金を現在の現役世代からの保険料で賄うというものである。経済が順調に成長し、支えられる人が支える人に比して少なければ、支払額よりも多い金額を受け取れる。

しかし、経済が停滞すると、その図式が成り立たなくなる。賦課方式と少子高齢化が年金問題の根っこにあるが、本書はそれを確認するところから議論を始める。

本書は、様々な試算を示してくれる。例えば・・・年金の支給開始年齢を遅らせることのみで対処しようとするれば、支給開始年齢を75歳強にしなくてはならない。政府の「百年安心プラン」についても、今後、100年にわたって運用利回りが年率4%になる、賃金も年率2・5%で上昇するなど、現状から見ると、『粉飾決算』としか言いようがない代物』だと述べる。・・・社会保障のあり方を巡っては、立場や信条が異なるゆえ、様々な意見があることだろう。しかし、現状の把握は国民の義務である。・・・個人的には、とりあえず娘の借金を何とかしないとイケないようだ。このままだと、年金に加入しないよう奨めないとならない。

持 込	持ち込み不可	試 験 時 間 60 分	問題、答案用紙セット